



辞めなければ何かがあるってことですね

—サッカーはいつから?

有吉 小学校4年生の時です。男の子と一緒にやりました。生まれは佐賀なんですけれど、女子チームがなかったんです。

—女の子ひとり混じってる感じはイヤでした?

有吉 全然意識してなかったですね。

—今だと小学生でボール蹴ってる女の子は、なでしこジャパンに入りたいなあって夢が持てるけど、当時は何になりたいとかあったんですか?

有吉 特になかったです。ただ楽しいというか、サッカーが好きだからやってるって感じてたね。でも、進学先の中学校には男子サッカー部しかなくて、今と違って前例もほとんどなかったし、女子は大会にも出られなかったから、入部を認めてもらえませんでした。それで、佐賀にあった社会人チームに入ったんですけど、練習に私一人の時とかもあって全然練習できなくて。そんな時、たまたま出場した九州の大会で神村学園(鹿児島県)の監督さんに声をかけられて、中2から神村学園に。

—神村学園から声がかかったから良かったけど、サッカーやれなくなっちゃう可能性もあったわけですよね。

有吉 辞めるつもりはなかったんですけど、環境が環境だったんで。いいタイミングで声をかけてもらいました。

—小学生の女の子とかでサッカーする環境がない子って今でも絶対いると思うんですけど。それでも有吉選手のように偶然がつかって、日の丸つけるってことがあるかもしれない。

有吉 辞めなければ何かがあるってことですね。神村学園の高等部は全国大会にも出ている名門で、佐賀にいた時には見る事ができなかった世界を見ることができました。中2の時に全国大会に鹿児島選抜で出たんですけど、大儀見選手、岩清水選手、宇津木選手たちがいたメニーナ(日テレ・ベレーザの下部組織)にコテンパンにやられて、同世代の日本のレベルっていうのもわかりました。その

あなたが子どもの頃に抱いた夢は? アスリートが子どもの頃に見ていた夢、そして夢を持つことの大切さを語る「夢を信じて」。インタビュアーはコラムニストのえのきどりょうさん。今回のインタビューゲストは、FIFA女子ワールドカップカナダ2015™サッカー日本女子代表として活躍した有吉佐織選手です。

時に自分が今どこの位置にいるかっていうのがちょっとずつ見えてきました。

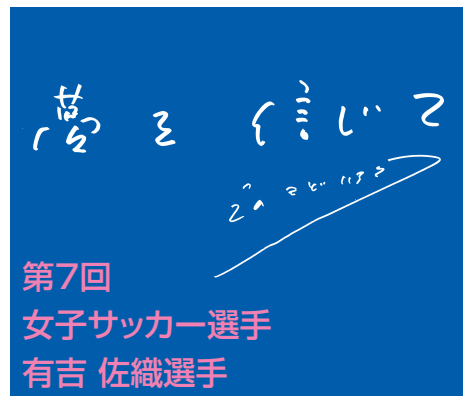
—大きな地図を見るような感じで「ああここにいたのか」って、自分の位置が分かる感じ?

有吉 そうなんです。それがまだ中2の時だったので、すんなり自分の位置や悔しい事も受け入れられて、それがまた励みになりましたね。

—反対に、自分の位置を知ってへこむ人もいる。

有吉 高校生とか少し自分が大人になってた時だったら、ああ無理かもって思ってたかもしれないんですが、中2で世界が広がったことは、自分にとってよかったかなって思います。

—限界や自分の身の丈を感じていたのが、「あれっ、できちゃう」っていうふうに限界をどんどん突破していくってのかな、世界が広がると同時にここまでいけるんだって自分でわかっていく。その連続ですよね、きっと。



第7回 女子サッカー選手 有吉 佐織選手

有吉 去年、代表に呼ばれてからなかなか自分が思っているようなプレーをできなかったりとか、普段やってるようなプレーもなでしこに入ったらできなかったりということもありました。それを少しずつ経験の中で変えていこうともがいてきた結果、まさかワールドカップの舞台上で自分が思い描くような楽しいプレーができるとは想像していませんでした。悔しい思いをしながらも前へ進んでできてよかったなって思いますね。

そんなにうまくはいかないよねって思いました

—2011年のワールドカップの時は、どうされていたんですか?

有吉 チーム(日テレ・ベレーザ)でテレビ見てました。

—どんなふうに見えました?

有吉 客観的にすごいなーみたいな感じてたね。

—あそこに行きたいとは?

有吉 その時点では思ってなかったですね。

—今回の2015年大会、実際に自分が出られてどうでしたか?

有吉 緊張しなかったって言ったら嘘になるんですけど、緊張より楽しみというか、ピッチに立てたことがうれしかったので、思いきりやってやろうって感じて臨みました。

—バーンとはじけた感じっていうか、すっげー勢いある有吉さん、って感じて見えました。準優勝は残念なんですけど、手ごたえあるでしょ。これいけるぞ、やっていけるなという感じは持てたんじゃないですか。

有吉 世界と戦えて、通用した部分もあったけど、やっぱり決勝でアメリカにコテンパンにやられて、いつかと同じように課題だったとか、まだまだなんだなっていうのも分かりました。

—物語が続いていく。「to be continued」って出る感じですよね。次みとけー! みたいな。

有吉 決勝で負けて、そんなにうまくはいかないよねって思いました。私自身も世界のレベルを肌で感じてよかったなって思います。もしも勝ってたらまた違う世界が見えてたかもしれないんですけど、あれだけ思いきりやられたら逆に潔いっていうか、そんな気持ちもあります。

—澤さんたちは見てるけど、有吉さんはまだ見てない世界…ってぺんからの景色があるわけで、それ見たいですよ。

有吉 いろんな世界、いろんなレベルを小さい頃から見ながら、自分は成長してきて、肌で感じて、ああいう決勝の舞台上で悔しい思いをしたっていうのは、きっと今後の自分にプラスになると思うんです。これからまたどう頑張っていくのが大事なかなって思います。

—そんな有吉さんのファンになった子たちは試合を観に行きたいと思うでしょう。テレビで見て興味をもった子…特に女の子たちは試合のどこを見たらいいでしょうか。

有吉 日テレ・ベレーザの選手は試合の緊張感の中でも笑顔が多いんで、必死にやりながらも楽しんでいる姿っていうのを見てほしいなって思います。

—サッカー楽しいんだ、っていうのが伝わるといいですよ。



©JFA

PROFILE プロフィール

有吉 佐織(ありよし さおり) 女子サッカー選手。1987年11月1日生まれ。佐賀県出身。日本体育大学卒業後、日テレ・ベレーザ入団。先日開催されたFIFA女子ワールドカップ カナダ2015™では、決勝トーナメント1回戦オランダ戦で代表初ゴールを記録するなど、攻守ともに活躍し、チームの準優勝に貢献。大会全体のMVP候補にも名を連ねた。日本体育大学入学時から横浜在住。現在、クーバー・フットボールパーク横浜ジョイナスに勤務。

取材を終えて

有吉さんは「フォーカスできてる」方でしたね。課題を整理して、どうすればいいか考えて、はっきりターゲット化して、努力して乗り越える。言葉がね、いちいち生きてるんですよ。考えた跡がある。フォーカスできてるから明確に言葉で言える。これは類まれな才能ですね。もちろんアスリートとしての才能はまた別だと思うけど、彼女は将来、素晴らしい指導者になれるですね。取材して面白い方でした。試合を観に行こうと思います。

